

Hybrid and Conventional Endoscopic Submucosal Dissection for Early Gastric Neoplasms: A Multi-Center Randomized Controlled Trial

江崎, 充

<https://hdl.handle.net/2324/6787475>

出版情報 : 九州大学, 2022, 博士 (医学), 課程博士
バージョン :

権利関係 : © 2023 by the AGA Institute. Published by Elsevier Inc. This is an open access article under the CC BY-NC-ND license.

氏名： 江崎 充

論文名： Hybrid and Conventional Endoscopic Submucosal Dissection for Early Gastric Neoplasms: A Multi-Center Randomized Controlled Trial

(早期胃上皮性腫瘍に対するハイブリッドESDおよび従来法ESD：多施設共同無作為化比較試験)

区分： 甲

論文内容の要旨

背景と目的：内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)を技術的に容易にするために、ESDと内視鏡的粘膜切除術を組み合わせたHybrid endoscopic submucosal dissection (H-ESD)が開発されている。本研究は、サイズの小さな早期胃上皮性腫瘍(EGN)に対するH-ESDが従来法ESD(C-ESD)よりも優れているかどうかを明らかにすることを目的とした。

方法：H-ESDとC-ESDの治療成績を比較する多施設共同前向き非盲検無作為化比較試験(Hybrid-G Trial)を実施した。腫瘍長軸径が20mm以下で潰瘍合併のない、分化型で粘膜内に留まるEGNを持つ患者を、H-ESDを行う群とC-ESDを行う群に無作為に割り付けた(1:1)。H-ESDには多機能スネアSOUTEN(ST1850-20、カネカ、メディックス、東京、日本)を使用した。主要評価項目は手技時間とした。副次的評価項目は粘膜切開時間、粘膜下層剥離の時間/速度、治癒率、内視鏡的手技の有害事象等とした。

結果：39例にH-ESD、40例にC-ESDが施行された。H-ESDの手技時間はC-ESDより有意に短かった(33.16 min vs 62.46 min, 比率: 0.53, 95%信頼区間 0.41-0.69, $P < 0.0001$)。粘膜切開時間は両群間に有意差はなかったが、H-ESDの粘膜下層剥離の時間および速度はC-ESDよりも有意に短縮された。その他の評価項目では両群間に差は認められなかった。

結論：H-ESDはC-ESDより有意に手技時間が短く、H-ESDとC-ESDの両方で高い治癒率と安全性が確認された。H-ESDはサイズの小さなEGNの内視鏡治療における良い選択肢となりうる。